



令和4年度戸田市立戸田第一小学校学校経営の重点 「令和の日本型学校教育」協働的な学びと個別最適な学びの構築 ～自分の頭で考える力と他者と協力してやり抜く力を育てる～

重点方針1 「やり抜く力」を育む教育の推進

1 学力の向上 学ぶ楽しさ(わかる できる 伸びる)を実感させる日々の授業実践

- (1) GIGA スクール構想のもと一人一台タブレットを活用した新しい学びの推進
 - ①ICT 機器のマストアイテム化(学年で共通理解しながら学校全体で推進)
 - ②1人1台活用しての一斉学習・個別学習(個別最適化)・協働学習の充実
・国語科児童用デジタル教科書活用による新たな学びの実現
・AIドリルキュビナ活用による個別最適な学びと学校・家庭をシームレスにつなぐ学びの実現
 - ③ICTのよき使い手となるべくデジタルシティズンシップ教育の推進
 - ④Googleclassroom・ロイロノート・ミライシード・スクラッチ等によるプログラミング・ICT活用授業
 - ⑤戸田市 PEER カリキュラムの推進
(Programming プログラミング教育の充実 Economic Education 経済教育の導入 English 英語教育の充実 Reading Skills 読解力の育成)
 - ⑥ICT活用授業を支える『学び合い』と言語活動の充実した授業の実現
- (2) 子供の意欲を高め、ホンモノから学ぶ PBL 型授業の研究発表
 - ①校内研修(生活科・総合的な学習の時間)における PBL 型授業の成果を研究発表会で発信(協働的な学びと地域とコラボレーションの実践)
 - ②地域社会や外部資源とのコラボレート授業(協働授業)の推進
 - ③カリキュラム・マネジメントを意識した教科横断型授業の実現
 - ④わくわくする教育実践の共有化(体験的学習、地域の人・もの・ことの活用)
 - ⑤子供の問題意識を耕し、地域の課題を見つけ、解決方法を考え、実践する授業
- (3) 21世紀型スキル・汎用的スキル・非認知スキル育成の視点に立った授業改善(ALルーブリックの活用)
 - ①一人一人に伸びを実感させる指導と評価の工夫(各種調査結果の活用)
 - ②ねらいとまとめを意識した日々の授業実践
 - ③教科担任制・教材研究分担制を生かした「教科別戸ースタンド」の確立
 - ④授業規律の徹底並びに教室環境及び授業のユニバーサルデザイン化
 - ⑤モジュールタイムの効果的活用とスマイルルーム等を活用した個に応じた指導の充実(個別最適な学び)
 - ⑥一人一人の実態に即した読書活動の充実と家庭学習の習慣化(個別最適な学び)
家でも学び続ける子80%

2 生徒指導の充実 自己有用感・自己肯定感を高め、自己指導能力を育成

【見逃さない・見捨てない・見て見ぬふりをしない(見過ごさない)】

- (1) 自己指導能力を育成する積極的な生徒指導
 - ①自己決定の場を与える
 - ②自己存在感を与える
 - ③共感的人間関係を育成する
 - ④セサミストリート・カリキュラムで主体的に判断する力等を育成する
 - ⑤デジタルシティズンシップ教育でデジタルのよき使い手を育成する
- (2) いじめの防止と根絶と不登校児童の解消
 - ①いじめ防止基本方針に基づく教育活動の展開(未然防止・早期発見・対応・解決)
 - ②いじめ認知報告の確実な実施(記憶より記録、いじめと感じた子供の立場で)

- ③いじめ問題等対策委員会・校内委員会・学校教育相談体制の充実
- ④いじめアンケートの実施とその対策の迅速な実施
- ⑤道徳教育の充実による豊かな心の育成（道徳科による考え、議論する道徳）
- ⑥教育相談、SC（スクールカウンセラー）、関係機関との連携

(3) 戸一小のきまり・生徒指導細部確認による共通指導・共通行動の徹底

- ①共通理解・共通行動で芽が出たらすぐに指導
- ②生徒指導部会で情報共有・専科教員との情報共有
- ③行動の理由を語らせ、自律できる子供にする指導
- ④寄り添う指導（背景理解に努め、行為を正し、心を育てる）と PBS（Positive Behavior Support）の推進
- ⑤家庭・地域と連携したメディアコントロールとデジタルシティズンシップ教育の推進

(4) 学級経営の充実と潤いのある教育環境の整備

- ①特別活動の充実による望ましい集団の育成
- ②安心して生活できる支持的風土のある学級（学級経営の充実）
- ③児童会活動等の活性化（委員会活動、クラブ活動、児童集会等）
- ④掲示責任者の明示と変化の有る掲示物（言語環境、芸術環境）
- ⑤校内の整理整頓と校内緑化活動の充実

(5) 幼保・小・中の連携

- ①戸田中学校・戸田南小との、学びと育ちの小中一貫教育の推進
- ②地域の幼稚園・保育園との連携・協働

3 心身ともに健康な児童の育成

(1) 運動量を確保し、運動の楽しさを味わわせる授業の充実

- ①自分の体力への関心を高め、意欲をもって体力向上に取り組む指導と評価の工夫
- ②生涯体育・スポーツにつながる運動の楽しさを味わい、学び合う授業
- ③建替えに負けない狭い校庭・代替地・体育館を有効活用する遊びの場・時間の保障

(2) 保健指導・食育指導の充実

- ①3密回避（集まらない・くっつかない・大声を出さない）、手洗いうがいマスクの徹底、教室換気を身に付けさせる
- ②養護教諭・栄養技師と連携した授業
- ③健康診断・保健だより・給食を活用しての自己の身体と栄養についての理解

(3) 自他の生命の尊重、自ら安全な生活を営む力を育成する安全教育の充実

- ①自助・共助・公助の力を育てる授業
- ②交通安全指導の徹底（交通事故の絶無を期す）と通学路点検の実施
- ③校内歩行・教室等における安全指導の徹底（きまりを守る）
- ④家庭・地域社会との連携による登下校の安全と放課後等の遊びの指導の徹底

4 人権教育・特別支援教育の充実

(1) 差別を許さない人権尊重の教育を推進

- ①多様性を尊重し、柔軟な対応により一人一人を大切にされた教育の推進
- ②人権感覚育成プログラムを活用した人権教育の充実
- ③障害に対する正しい理解を深め、自立を援助する教育活動の推進

(2) まめの木学級（特別支援学級）と支援籍学習（交流及び共同学習）の充実

- ①一人一人の障害の状態等に対する教育的ニーズに対応してきめ細かな指導
- ②特別支援学級への理解を進める啓発活動（児童、保護者、地域社会）
- ③まめの木学級も通常学級も互いに尊重しあえる交流学習

(3) 特別支援教育の視点に立った授業の推進（授業のユニバーサルデザイン化）

- ①「すっきり」「はっきり」「みえる化」「つながり」「学び合い」のある授業

- ②適切な集団への指示と適切な個別対応の充実
 - ③発問・説明・指示の簡潔化と教室環境の整備（前面すっきり、整理整頓）
 - ④上学年まめの木 T2 指導による児童理解と対応力の向上
 - (4) 就学相談、支援体制の充実
 - ①特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育・就学相談体制の充実
 - ②配慮を要する子供の把握と共通理解及び早期からの保護者との就学相談
 - ③子育て学習会等の充実
 - ④スマイル教室で算数の取り立て学習（個別最適な学び）
 - ⑤日本語教室、通級指導教室等における個に応じた指導の充実（個別最適な学び）
 - ⑥校内ステップ教室（仮称）による個に応じた指導の充実（個別最適な学び）
- ゆるぷらっととの連携

重点方針 2 地域とともにある学校づくり

1 学校運営協議会の充実

- (1) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の円滑な運営
 - ①地域とともにある学校づくり（校舎建替に向けての理解と協力も）
 - ②地域で学ぶ、地域を学ぶ（地域の人、もの、ことを生かす）教育活動
 - ③学校運営協議会の SDGs 化（自律した組織へ）
 - ④知恵を出し合い、実現化する会議
- (2) 教育活動の積極的な情報発信と情報収集
 - ①学校だより、HP、Facebook による情報発信
 - ②ハイブリット型学校公開日等による教育活動の発信
 - ③アンケート機能を活用したホーム&スクール・Googleforms による情報収集
- (3) 家庭・地域の教育力の活用
 - ①三方よし（学校よし、家庭よし、地域よし）で子育てする環境
 - ②授業協力者とのコラボレート授業（生活科、家庭科、体育等）
 - ③ハイブリッド型授業参観・懇談会・教育相談の充実
 - ④学校応援団・戸っ子サポーター・PTA ボランティアによる学校支援

2 地域と協働した PBL 型授業の充実

- (1) 産官学民との連携による本物教育の実践
 - ①専門家とともに進めるコラボレート授業
 - ②ボランティアによるななめの関係による授業支援
 - ③フィールドワークを多用した学校の外に飛び出す学習
- (2) 学校外の多様な人材に評価してもらう本物教育の実践
 - ①学習の場を学校外に広げるフィールド拡大授業
 - ②学習成果物を展示・発信して評価をもらう
 - ③喜んでもらえる成果物
- (3) 学校と家庭の学びのシームレス化
 - ①ICT を活用しての学びの連続性の保障
 - ②ルーブリックを活用し「自ら学ぶ」自走する児童の育成
 - ③コーチングによる寄り添い支援

3 安心・安全・夢のある建替工事

- (1) 新校舎への円滑な引越（年度末）
 - ①昭和のにおいの決別・棚卸により備品等の精選
 - ②作業・工事の共通理解と指導への安全指導の徹底
 - ③計画的な引っ越し準備と迅速な作業・荷ほどきで令和 5 年度を迎える

- (2) 未来の教室づくりへの参画
 - ①「令和の日本型教育」を具現化する教室づくり（講義型・スクール形式からの脱却）
 - ②シンプル&デジタルで未来の教室づくり（壁面プロジェクターの活用）
 - ③SDG s の発想で教室経営
- (3) 創造性を発揮する工房と多様な価値観が交流するハブとしてのオフィスづくり
 - ①集中スペースと協働スペースがある空間
 - ②リラックススペースとコラボレーションスペースのある空間
 - ③新たなものを創造する空間

重点方針3 働き方改革の推進

～マインドセットし子供の教育に専念できる環境づくり～

1 ワーク・ライフバランス

- (1) 自分の時間を充実させよう
 - ①今までの働き方を見直し、マインドセット
 - ②勤務時間に仕事を終わらせ、育児、家族とのふれあい、趣味、自己研修、学校外の人材との交流、越境によってインプットし人生を豊かに。（毎週水曜日の定時退勤日、ふれあいデーの実施・7時解錠19時施錠）
 - ③ゴールから逆算しての業務計画・実践を
- (2) 学校の経営方針と個人の生き方を繋ごう
 - ①ビジョンにリンクしよう！
 - ②自律自走でチャレンジしよう
 - ③一番はじめにおもしろいことやろう！クリエイティブに楽しもう
 - ④できればまねしてもらえそうなことをやろう！

2 チーム戸で、互いにフォローし主体的に業務改善

- (1) 組織力の向上 戸ブライド、三人寄れば文殊の知恵で
 - ①組織再編と企画委員会の権限強化で組織力の向上
 - ②企画委員会で児童・教員の状況報告
 - ③組織力の活用（学年・専科等のまとまり。専科教員との連携。原則一人一主任）
 - ④一人で抱え込まず、複数で解決
 - ⑤「報告・連絡・相談」の徹底
 - ⑥多様性を生かし、学び合い
- (2) 学校の DX（デジタルトランスフォーメーション）化
 - ①電子会議・電子管理で、校務能率 UP し、児童とのふれ合う時間を生み出す
 - ②学年 ICT 部員（管理・ハードと指導・授業実践）の推進による GIGA スクール構想実現
 - ③資料の事前確認、協議事項の明確化、会議の目的の共有、行事終了時即翌年度計画立案により時間を生み出し負担感の軽減を図る（オンライン会議のマナーの厳守）
 - ④5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進で時間を生み出す（教室内外、備品管理、職員室机周り等のキレイな状態を維持）
- (3) 教科担任制によるチーム学年の具現化
 - ①中・高学年教科担任制と低学年教材研究分担制で時間を生み出す
 - ②上学年完全教科担任制で教科のプロを目指す
 - ③学年の児童を学年担当で見守り支援していく
 - ④一人一人のマインドセットと業務改善による教育活動専念化（50cm の改善）

3 服務の基本 ～保護者・地域からの信頼を得る～

- (1) 法令・法規に基づき、教育公務員としての自覚を高め、公私の区別を厳しく行い服務専念の義務を果たす
- (2) 出勤簿の捺印、退勤時の施設・文書の保全管理等の徹底
- (3) 年休届けの提出、出張の報告・復命、各種願、報告等の迅速な対応
- (4) 信用失墜行為、教職員事故を絶対に起こさない決意
- (5) 体罰、不適切な指導の根絶（思い上がった指導はないか）
- (6) 情報漏洩に注意（情報セキュリティポリシーの遵守）
- (7) 交通事故防止（乗車中は心の安心、飛び出すことが前提、法令遵守、焦らず連絡）
- (8) あらゆるハラスメントの根絶（人の前に立ち、「先生」と呼ばれる責任）

さ酒
い異性
た体罰
まマネー
 の
ひ非
 の
こ個人
わわいせつ
(は)ハラスメント
 の根絶

倫理確立委員会による研修では、題材について自分事として捉え、チーム戸ーのことを踏まえ、各自が行うこと、みんなで行うことを考える。また、各自が他府県等ではどのような服務事件・事故が起こり、どのような対策をとっているのか等について調べ、共有し、職場のハードルを高めるようにしていく。

4 勤務時間及び休憩時間等

- (1) 勤務時間（勤務開始時刻及び終業時刻） 8:30 ~ 17:00
- (2) 休憩時間（6時間以上勤務する場合の）
 - A 月曜日課の日（月曜日）
 - 14:25~15:10（45分間）**
 - 【会議・委員会等 15:10~16:00（50分間）】
 - 【教材研究 16:00~16:45（45分間）】
 - 【夕集 16:45~17:00（15分間）】
 - B 最終学年が6時間授業の日（火・水・金曜日）
 - 15:50~16:35（45分間）**
 - 【クラブ・委員会 15:00~15:45（水曜日）】
 - 【学年会・部会・教材研究 16:35~17:00（25分間）】
 - C 最終学年が5時間授業の日（木曜日）
 - 14:55~15:40（45分間）**
 - 【校内研修・教育相談 15:40~17:00（80分間）】
 - D 休業日または児童が給食なしで下校する日
 - 12:15~13:00（45分間）**
- (3) 定時退勤日 原則毎週水曜日及びふれあいデー（原則21日）
 - ※週にふれあいデーがある場合はふれあいデーのみ定時退勤日とする
 - ※やむを得ない事情（面談等）が見込まれる時は前日までに管理職に、時間と内容を申告する。
- (4) 出勤時・退勤時に挨拶と共に打刻し、自己の在校時間を把握し、よりよい働き方を考える。上限月45時間、年間360時間をもとに、1日2時間を意識する。
- (5) 学校は原則7時に開錠し19時に施錠する。
- (6) 「先生」と呼称するのはやめよう。

令和4年度の人事配置

教育改革、皆さん一人一人の働き方改革、意識改革＝マインドセットのもと、豊かな人生を築くための楽しく仕事をしていきましょう。令和3年度も引き続き、「自分の頭で考える力と他者と協力してやり抜く力を育てる学校」目指し、「分業と協業によって「チーム戸ー・戸ープライドの実現」「学級で、学年で、全校で戸ーっ子を育てよう」です。

I 配置方針

(1) ワーク・ライフバランスの充実

- 経験年数に応じた役割取得と働き方のモデルチェンジ
 - 初任者を含む若手教員の経験値を増やすこと
 - 中堅教員の学年主任レベルへの調整力の向上
 - ベテラン教員の指導技術の伝承と経営力の向上
 - 学年レベルで分掌体制の構築
- 笑顔のある温かい職場
よさを認め伸ばす同僚性
立場の自覚と育てる力
盗まず聞いて受け継ごう
チーム○年生**
- (教材研究、主任・生徒指導・就学教育相談不登校・児童活動、学年会計等役割分業)

(2) チーム戸ー・戸ープライドの実現

- 特別支援教育体制の構築と一人一人の対応力の向上
 - 学年指導体制、全校指導体制
 - 特別支援を必要とする児童への対応方法の学年内共有・全校での共有
 - 特別支援学級との交流及び体験学習の充実
 - 特別支援学級担任交流制度(1コマ,1年,2年,専門)
- 一人一人のニーズに応える
見過ごすな、見落とすな、見て見ぬふりをするな
カラフル教育
多様性を肌で感じ尊重し合うカラフル教育
特支への短期・中期・長期留学!**
- 担任のまめの木学級 T2 支援・T1・交流学級まめ T2

II 配置計画 ※原則案

- (1) 4年生以上完全教科担任制
- (2) 3年生学年内入替教科担任制(2学級で国語と算数を交換する)
また、異なる学級で例えば社会・理科の入れ替えなどクロスで交換する。
- (3) 3年生以下学年内教材研究分担制
- (4) 2年生教科入替え制(2学級、3学級で国語・算数等入れ替える等)
- (5) 経験年数に応じた役割取得と働き方のモデルチェンジ
- (6) 初任者を含む若手教員の経験値を増やすこと
- (7) 上学年の「スマイル」、「まめの木 T1・T2」と個別支援への指導の充実